

# 最先端表現技術利用推進協会 2018年キックオフミーティング



一般財団法人最先端表現技術利用推進協会  
会長 町田 聡

## アジェンダ

### 1. 福本 隆司さん（神奈川工科大学）

→ 発表

### 2. 2018表技協活動計画

→ アカデミック部会設立のご案内

→ 3Dフォーラムプロジェクトの紹介

→ 伝統文化プロジェクトの紹介

### 3. 希望者懇親会

# 表技協とは？

表現者のために  
最先端の技術を使いこなすための団体

# 表現技術とは？

誰かに伝えるための道具としての技術

## 表現技術

- ・S3D(立体視)映像
- ・3D・2D CG / VR / AR / MR
- ・シミュレーション
- ・デジタルシネマ
- ・デジタルサイネージ
- ・プロジェクションマッピング
- ・メディアファサード(メディアウォール)
- ・イルミネーション(ライティング)
- ・デジタルファブリケーション(3Dプリンタ)
- ・メディアアート
- その他

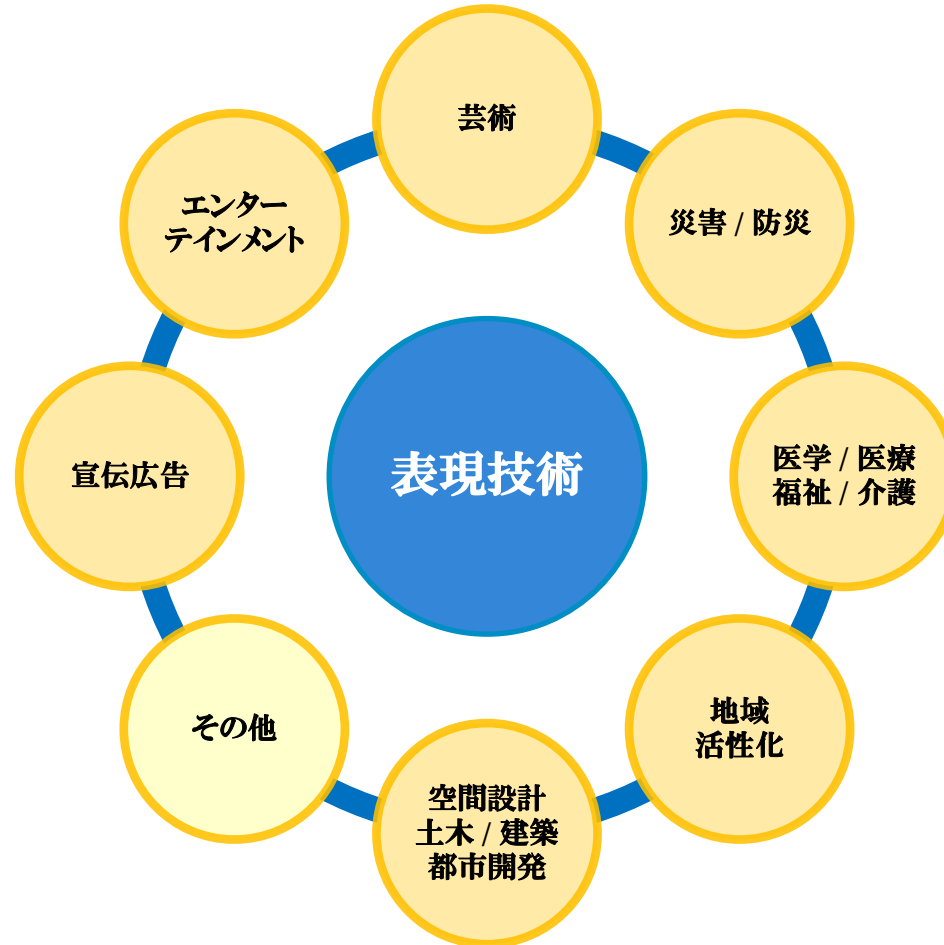
# 表現技術とは？

表現技術をコアにして



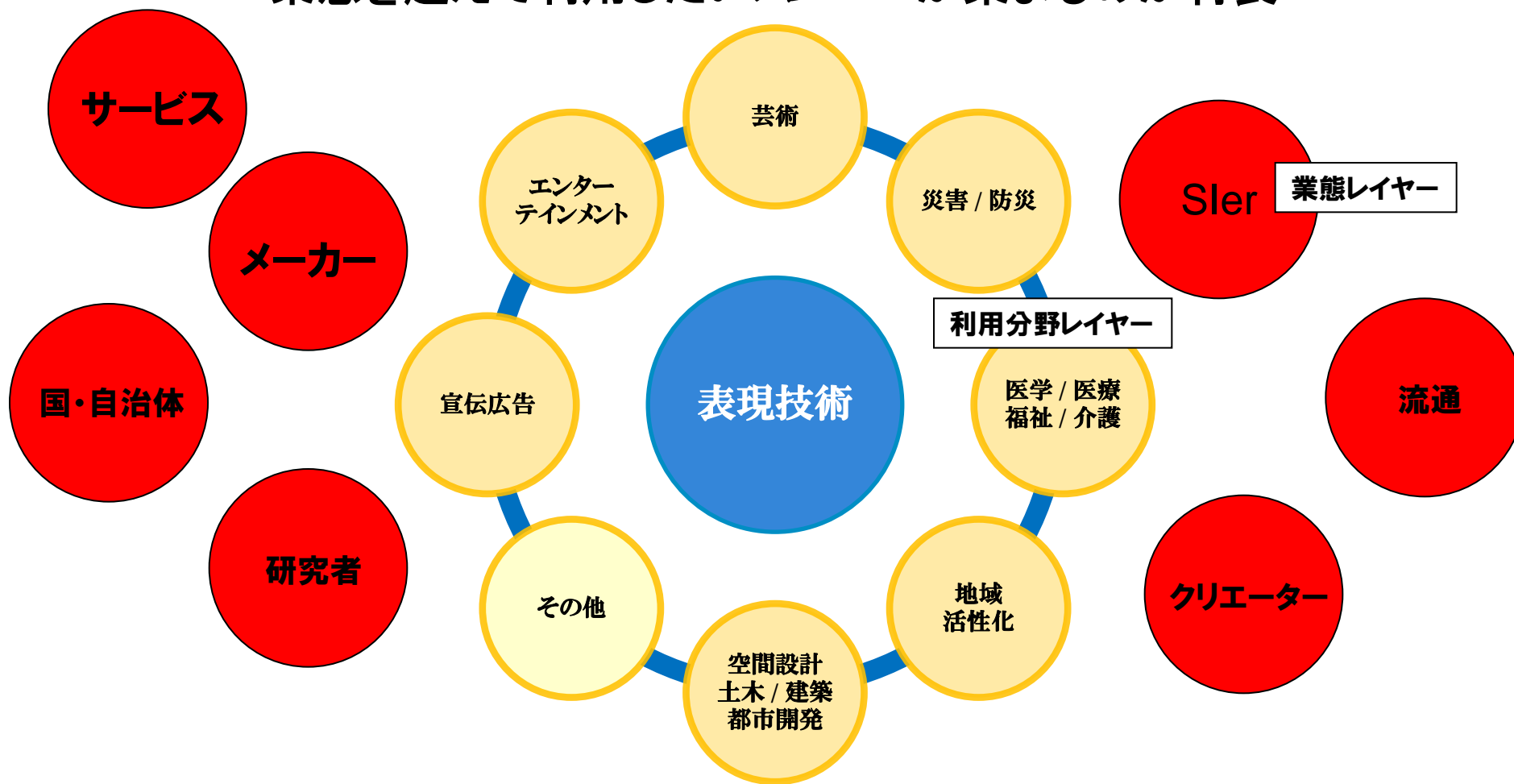
# 表現技術の利用促進分野

分野を超え利用したいメンバーが集まる団体



# 表現技術の利用業態

業態を超えて利用したいメンバーが集まるのが特長



# 部会構成

## ■ ユーザー部会

様々な業界(建築・土木、医療、自動車、自治体)など利用者のメンバーが中心

## ■ プロダクト部会

メーカーさんや研究機関など、ハードウェアなどの作り手が中心

## ■ クリエイティブ部会

プロダクション、デザイナーさんなどのクリエイティブな作り手が中心

## ■ アカデミック部会 ← 新設

大学、企業、研究機関の研究者の方が中心



# プロジェクト紹介

## ■ ユーザー部会

様々な業界(建築・土木、医療、自動車、自治体)など利用者のメンバーが中心

## ■ プロダクト部会

メーカーさんや研究機関など、ハードウェアなどの作り手が中心

## ■ クリエイティブ部会

プロダクション、デザイナーさんなどのクリエイティブな作り手が中心

→ **伝統文化プロジェクト**

## ■ アカデミック部会

大学、企業、研究機関の研究者の方が中心

部会長: 佐藤誠(東工大名誉教授)

副部会長: 加納裕(ソフトキューブ)

→ **3Dフォーラムプロジェクト(紹介)**

## ■ 合同部会

- ・ 月一回開催(部会とセミナーが増えてきたら各部会に戻す予定:2019年?)
  - 勉強会
    - ・ メンバーによる発表
    - ・ プロジェクトのトピックス報告
  - 見学会
  - セミナー開催

## ■ プロジェクト

- ・ 伝統文化プロジェクト(クリエイティブ部会内)
  - ワーキンググループ単位で活動
  - ワーキング参加者のみ参加
- ・ 3Dフォーラムプロジェクト(アカデミック部会内)
  - セミナー開催(4回)
  - 会誌の発行

# 伝統文化（過去の取り組み）

## ■ プロジェクションマッピング



錦帯橋



円融寺

## ■ 3DCGモデリング+映像制作



五箇山合掌造り



# 伝統文化（過去の取り組み）

## ■ インタラクティブ パフォーマンス



エア書道



# 伝統文化プロジェクト活動計画

## ■ 伝統文化プロジェクト(クリエイティブ部会内)

### 共通テーマ アーカイブ、伝統×技術のコラボ

能 WG(活動開始) 4/25 16:00-鎌倉能舞台にてミーティング

- ・リーダー:町田
- メンバー:Flapper3 千葉、猪俣(マッピング担当)  
シリコンスタジオ 桐井(能面3Dレンダリング)  
渡辺(VR撮影の応用)  
キヤノン 小川(高解像度映像検討中)  
鋤本(サウンドID=多言語放送)
- ・参加希望あればご相談
- ・外部メンバー:公益財団法人鎌倉能舞台

江戸写し絵WG (準備中)

マジックランタンあるいは幻燈を用いたエンターテインメント  
→ マルチモバイルプロジェクトマッピングによる再現

江戸あやつり人形WG (準備中)

文楽のように人が人形をあやつり舞台上で演じる伝統芸能  
→ VRでの記録、および高解像度での記録を想定

# 最先端表現技術利用推進トピックス

## 1. 社会貢献

→ 熊本地震の災害急性期への表現技術支援

## 2. 人材育成・地域活性

→ 富山県南砺市への  
「3DVRアーカイブスの構築」

→ 岩手県北上市への  
「いわて国体前夜祭」プロジェクションマッピング教育支援

## 3. セミナー

→ 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム(URCF)との共催  
「VRの安全性ガイドラインの考察」

## 4. 賞

→ 羽倉賞を創設

## 5. 検定事業の推進

→ 2018年度実施に向けて

